

令和5年度

授業改善プラン



中野区立中野東中学校

学校教育目標

知を磨き 徳を高め 体をつくる

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)

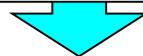
個別最適な学びと協働的な学びを共に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。そのために、習熟度別少人数指導や一人1台のタブレットを活用した授業を充実させ、補充的な学習と発展的な学習の強化を図る。

指導の重点(各教科)

- ◆数学は習熟度別少人数指導、英語は少人数指導を実施し、個々の学習上の課題に対応した基礎的・基本的な内容と発展的な内容の指導を展開する。
- ◆一人1台のタブレットを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体化させながら、主体的・対話的で深い学びを充実させる。
- ◆年間指導計画、評価計画、発達段階に応じて身に付ける学力等を示した配布資料を作成し、年度当初の学習説明会で説明する。生徒には、年度始めのガイダンスや、各教科の授業内で説明し、学習の見通しをもたせる。
- ◆放課後学習教室や長期休業中の補充教室を計画し、学習意欲の向上を図る。
- ◆生徒や保護者が学習上の成果や課題を具体的に把握するために、通知表とは別に、「学習状況のお知らせ」を配付し、課題解決に向けた方策を指導する。

指導の重点(総合的な学習の時間)

- ◆探究的な見方・考え方を働かせて横断的・総合的に学習を展開する。
- ◆職業や自己の将来に関する課題として、キャリアパスポートを活用し、キャリア教育の視点を踏まえ各学年に応じた学習を推進する。
- ◆各学年の継続的指導の自己理解やライフプランニングを通して、短期的・長期的な目標の実現に向けた学習を実施する。
- ◆各学年の取組の一部に「グローバル」な視点の学習を取り入れ、特色ある教育を推進する。



授業改善に向けた具体的方策

基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
<ul style="list-style-type: none"> ◆Google アプリを活用し、課題配信や、スプレッドシートなどで思考力を高める学習を行う。 ◆各教科の学習の定着を図るために、QubenaなどのAIドリルを積極的に活用し、個に応じた学習を進める。 ◆任短教員を活用して、日常の補充的な学習支援や放課後学習教室、放課後自習教室、夏期学習補充教室等の取組を実施する。また、英語、数学の授業にTTで入り、学習支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆話し合い活動やジグソー学習等の協働的な取組も充実させ、他者に関わり合いながら課題解決する学習を展開する。 ◆総合的な学習の時間では、各教科と関連付けながら授業内容の充実を図る。その際、情報を収集し整理・分析して、個人やグループで表現する探究学習のプロセスに留意して思考力・判断力・表現力を高める。 ◆キャリアパスポートを活用し、学習の振り返りも重要視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆5月に学習説明会を実施し、各教科の年間指導計画と評価方法、評価基準を説明する。 ◆「学習状況、学習評価のお知らせ」を配布し、指導と評価の一体化を図る。 ◆年間7回の校内研修会と、職員会議を通じて、上記指導の重点(各教科)並びに区学力調査の結果を基に、指導と評価の一体化を図るための具体的な指導法を校内で共有する。 ◆校内研修とOJTの実施により、校内の共通理解と組織力の向上を図る。
<p>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆QubenaなどのAIドリルの活用を通して、個々が繰り返し学習できる場面を設定し、個別最適な学びの充実を図る。 ◆教科の授業で、話し合い活動や、表現活動を通じて、他者の考え方に触れ、課題解決に向けた多様な考えを重要視する指導を推進する。 ◆上記2つの項目の一体的充実を図るための具体的な指導実践内容を、校内研修で共有する。 	<p>ユニバーサルデザイン、合理的配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教室の黒板(ホワイトボード)の一面に、授業のめあて、流れを明記し、生徒の授業に対する目的意識が明確になるように工夫する。 ◆個別指導のためのコンピュータ、デジタル教材、学習室を確保する。 ◆一人1台に貸与されているiPadを活用し、生徒の体調を鑑みながら、個々の課題に応じた、オンライン等の対応も推進する。 	<p>家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習説明会で家庭学習の仕方を説明し、家庭と連携した自主的学習の充実を図るための説明も配布資料に明記する。 ◆学生ボランティア等を活用して個に応じた指導の充実を図る。 ◆保幼小中連携教育を通じて、連携小学校、保育園、幼稚園、地域と連携を図りながら、グローバル人材の育成に向けた取組を検討・推進する。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての学習における基本となる漢字や語彙の習得に向けて、学習時間の確保をした上で、定期的な習熟度チェックを行うことや、漢字検定への挑戦を推奨する。 ・ 様々な文章に触れる機会を設け、自分の考えなどを積極的に表現したり、伝えあったりする言語活動の充実を図る。また、コミュニケーションを通じて、思考の広がりや深まりを得ようとする態度を身に付ける。 ・ 「話す・聞く・書く・読む」という4領域をバランス良く行い、自らの考えを表現する力を身に付ける。

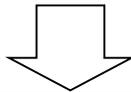
現状分析

区学力調査の結果分析

1年生の全体達成率は69.9%で、区全体達成率は69.3%である。2年生の全体達成率は72.1%で、区の全体達成率は67%である。3年生の全体達成率は72.2%で、区の全体達成率は72%である。どの学年も区の全体達成率を上回ることができている。しかし、領域別によると各学年で課題がある。

教科指導上の課題

- ・ 基礎知識を定着させ、基礎知識を活用した言語活動の充実を図る必要がある。
- ・ 言語活動で深めた思考を自分の考えとして表現する活動の充実を図る必要がある。
- ・ 主体的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする学びに向かう態度を育成する必要がある。
- ・ iPadを効果的に活用した授業を実践して、他者と意見を共有する学習を展開する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人1台端末を自身の考えをまとめること、他者との意見共有のために積極的に活用し、考えを深めるための一助としていく。 ・ 他者の意見にも耳を傾け、教え合いや学び合いをする機会を増やし、協働的な学びを実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の読み書きなどの基礎知識を定着させ、基礎知識の定着を図り、定期的に習熟度チェックを行う。 ・ ワークや Qubena 等を用いて、学習内容の定着を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人1台端末を言語活動の一環として積極的に活用し、自力思考から他者との共有への深まりを図れるようにする。 ・ 思考を起こす、考えをまとめるなど、活動の種類によって使用する媒体を選択できるようにし、全員が協働的な学びを実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の読み書きなど基礎知識の繰り返し学習を毎時間取り入れていく。また単元毎に習熟度チェックを行い、定着度を確認する。 ・ iPadで実施する Qubena 等を用いて、文法事項等の学習内容の定着を図る。 ・ 授業プリントや補充プリントをクラスルームでも配布し、家庭学習の一助とする。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人1台端末を活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有するだけでなく、グループでの発表活動が効果的に行われたりするように、表現活動の一つとして積極的に活用する。 ・ 基礎的・基本的な内容について互いに教え合う機会を設け、協働的な学びを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の読み書きに代表される基礎知識や語彙力の向上を図り、定期的に習熟度チェックを行う。 ・ ワークや「Qubena」等のソフトを用いて、学習内容の繰り返しの復習を促し、基礎的学習内容の定着が図られるように指導する。

(2) 社会科

【中学校】

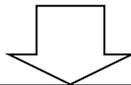
社会科における指導の重点

- ・ ICT機器を活用した視覚支援や、定期的な小テストや振り返りの実施を通して、基礎的な知識・技能を習得させる。
- ・ 資料から情報を読み取る方法についてスモールステップで指導を行い、資料活用能力を高める。
- ・ 生徒自身の考えを論理的に記述、論述する機会を継続的に設けることで、3年間を通して思考力・判断力・表現力を育成する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 基礎的・基本的な知識の習得を進めていき、2,3年生への土台を形作っていく。生徒の興味を引くようなスライド作りや基本的な問題演習を細かく行い、知識の定着を図る指導を強化する必要がある。(1年生)
- ・ 資料を読み取る際の視点について丁寧に指導しながら、自らの意見を表現する機会を徐々に増やしていくことで、思考力・判断力・表現力の育成を図ることが課題である。(2年生)
- ・ 基礎的な知識の習得を進めることができているが、資料の活用や読み取りなどの技能の習得・育成を図る機会を確保すること、生徒の記述に対し時宜を得たフィードバックを行い生徒の学習改善に繋げさせることが課題である。(3年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習での進捗状況や課題、意見をグループで共有し、課題についてブラッシュアップしていき、協働的な学びを深めていく。 ・ 「Qubena」を用いて、生徒自身で学習に取り組ませる。また、単元の振り返りから生徒の学習取得状況を図り、生徒一人ひとりの課題を見付け、指導の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人1台端末を活用し、生徒の興味関心を引き出す教材を使用しながら、基礎的・基本的な知識・理解が学習をする上で重要になることを生徒へ周知させる。 ・ 一つの課題について複数の資料から生徒が読み取り、自身の言葉で表現する機会を多く設定し、多面的・多角的な考え方を養う。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Qubena」「Navima」等のソフトを用いて、生徒個々の課題に応じた問題に取り組ませるとともに、基礎的・基本的な内容について互いに教え合う機会を設け、協働的な学びを進めていく。 ・ 一人1台端末でGoogle classroomのアプリケーションを活用し、生徒が資料を活用して読み取った事象の共有や、グループでの発表活動が効果的に行われるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライド作成アプリや画面共有機能を活用することで、調べたことを効果的にまとめ、表現する力を培う。 ・ 一人1台端末で、クイズアプリや学習用ゲームなど、生徒の関心を引き出す教材を活用することで、基礎的・基本的な知識・技能の習得と学習意欲の喚起を図る。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ Googleスライド、スプレッドシートなどを用いて、調べ学習の成果や課題に対する意見の共有を行い、協働的な学びを深める。 ・ 生徒の興味関心や理解に応じて課題や学習方法を選択する機会を設け、生徒の実態に応じて指導の重点や学習指導の方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態に応じて教材を工夫、一人1台端末を活用して資料の提示を行うことで生徒の学習意欲の向上を図る。 ・ Qubenaが展開している基礎問題と標準問題を生徒に選択させて復習に取り組ませることで、より効果的な基礎的・基本的な内容の定着を図る。

(3) 数学科

【中学校】

数学科における指導の重点

- ・ 課題解決型の授業や協働学習を通して、主体的に取り組む態度や粘り強く取り組む態度、既習事項を活用して考える力などを育成していく。また、iPad を活用し、考えをまとめたり、伝えたりする活動を増やしていく。
- ・ 基礎・基本の確実な定着を目指し、毎時間の基礎計算練習、既習事項の繰り返し学習、定期的な単元確認テストなどを行っていく。

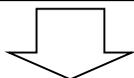
現状分析

区学力調査の結果分析

1年生の全体の達成率は69.3%であり、区の達成率は63.9%である。2年生の全体の達成率は76.2%であり、区の達成率は70.5%である。3年生の全体の達成率は75.4%であり、区の達成率は68.5%である。したがってどの学年も区よりも高い達成率を得ることができている。ただ、領域別や観点別にみると、それぞれの学年での課題が見られる。

教科指導上の課題

- ・ iPad を活用し、生徒の活動を多様化させながら、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る必要がある。(1年生)
- ・ それぞれの平均正答率は区や全国より高く、特に、基礎については正答率が70%となっている。しかし、活用での正答率が54.7%と基礎と低くなっている。したがって、基礎・基本の活用に重点を置いた指導をする必要がある。(2年生)
- ・ それぞれの平均正答率は区や全国より高い数値を得られている。ただ、領域別にみると、図形分野では平均正答率62.9%となり、区や全国の平均正答率よりやや低い数値になってしまっている。したがって図形の分野での指導を工夫し、基礎的な知識や技能の定着を図る必要がある。(3年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ Qubena を積極的に活用し、個の習熟度に応じた学習課題を設定する。 ・ 授業のプリントや発展プリントを Google Classroom で配信し、家庭学習を充実させる。 ・ 問題解決学習において iPad を活用し、他者と考えを共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算分野において、基礎計算の反復練習を毎授業冒頭に実施する。 ・ 図形分野において、デジタル教科書を活用し、図形の移動や回転などを可視化させる。 ・ データの活用において、グラフを作成しながら定着を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な内容と発展的な内容のプリントをオンラインで配信し、それぞれにとって必要な部分の学習を選択できるようにする。 ・ 問題解決型学習を行い、自力解決→考えの共有→話し合い→全体共有の流れで、授業を展開する。 ・ 考えをまとめ、共有する際に iPad を活用する。 ・ 関数・図形・データの活用領域でのデジタル教材やアプリを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Qubena を活用し、基礎的・基本的な内容の復習を、毎時間授業冒頭に行う。また、定期的に基礎基本のチェックテストを行う。 ・ 関数領域と図形領域では、作成ツールを活用することで、手でかくだけでは表現できない関数や図形についてもイメージをし、理解を深める。 ・ データの活用領域では、アプリを活用して、データの分析に重点を置いた授業を展開をする。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関数や図形の領域では特に、デジタル教科書や電子黒板を効果的に活用し、視覚に訴える授業をする。また、iPad を有効に活用し、実際に図形を動かしたり、関数のグラフを書かせたり等の活動を行う。 ・ 問題解決型の学習を積極的にを行い、自力解決→話し合いにより、思考力を高める授業を展開する。 ・ iPad を活用し、自分の考えをまとめたり、他者と共有できるようにしたりする。 ・ 授業のプリントや発展プリントをオンラインでも配布し、家庭学習の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Qubena」を用いて、基礎計算の繰り返し学習を毎時間取り入れていく。さらに、定期的に基礎計算チェックを行う。 ・ 授業の解説動画や解説プリントなどを配信し、個別学習のできる環境を整え、基礎学力の定着を図る。 ・ 図形分野では、授業のはじめに2年生の振り返りを行い、基礎力の向上を目指す。

(4) 理科

【中学校】

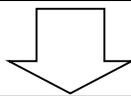
理科における指導の重点

- ・一人1台のタブレットを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体化させながら、主体的・対話的で深い学びを充実させる。
- ・学習の定着を図るために、QubenaなどのAIドリルを積極的に活用し、個に応じた学習を進める。
- ・話し合い活動や、表現活動を通じて、他者の考え方に触れ、課題解決に向けた多様な考えを重要視する指導を推進する。

現状分析

教科指導上の課題

授業で扱った科学的学習内容が、身近にある自然現象に関連付けられていることを意図的・計画的に指導し、学習内容の有用性を感じさせるとともに、将来の仕事や生活に役に立つ内容として学習できるように指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・実験・観察の終わりに個人と班の振り返りを実施する。Google フォームを用いてデータとして残し、次回の実験・観察の際に示すことで、振り返りを活かした観察・実験を行う。・授業内で、生徒が自らの学びや、考えを他者に伝える時間をつくる。言葉にして伝えることで、確かな知識の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none">・授業内で単元毎に小テストを実施し、基礎・基本の知識の定着を図るとともに、自身の学習を振り返る機会をつくる。・授業終了前に生徒が自らの考えを他者に伝える時間をつくる。生徒自身が授業の中で学んだことや、分かったことを振り返り、知識の定着を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・実験・観察の記録については、個人内評価の実施が図れるように、具体的な指導を盛り込んだ評価を行う。例えばB評価を付けた生徒に対しては、A評価になるためのヒントをコメントで書き込み、次回の取組に反映できるように指導する。・定期考査後や単元終了ごとに、振り返りシートをGoogle Classroom を活用して振り返りを実施し、学習内容の定着と今後の見通しについて検討する場面の設定を行う。	<ul style="list-style-type: none">・実験・観察を行う前に、「予想」→「実験」→「考察」→「まとめ」のルーティンを設定し、「予想」と「考察」の場面では、自分の考えを班員に伝える話し合い活動を取り入れる。その際に、自分の考えを根拠に基づいて説明できるように指導する。・教科書の章末問題、ワーク、AIドリル(Qubena)を活用し、学習内容の繰り返しの復習を促し、基礎基本の定着が図られるように指導する。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・科学的事象の理解のために、授業では電子黒板を用いて、図表や動画の提示を行う。また、タブレットを用いて、定量的な算出や分析を行ったり、課題の提出を行ったりし、学習の定着を図るようになる。・タブレットを用いた実験結果の共有や、まとめ・考察をスプレッドシートを活用して発表するなどの機会を増やし、協働的な学びの機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none">・学習した内容についてスモールステップでの小テストを行い、内容の定着を図る。・ワーク・AIドリル(Qubena)を活用し、学習内容を繰り返し学習し、様々な問題に触れることで、基礎的学習内容の定着を図る。・小テストやワークなどで定着に課題があった学習内容の振り返りを各自で行い、個に応じた学習を進める。

(5) 音楽科

【中学校】

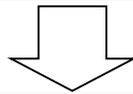
音楽科における指導の重点

- ・ 幅広い音楽活動を実施し、既習の学習状況に応じた指導を行うことで、音楽の多様性等について理解させるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。
- ・ 音楽や言葉によるコミュニケーションを図り、言語活動を充実させることで、音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- ・ 他者と協働して行う音楽活動や新しい音楽との出会い、さらにそれによってより深まった音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 変声や小学校での学習状況等、個に応じた丁寧な指導。(1年生)
- ・ 他者と関わりながら音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に対する感性を豊かにすること。(2年生)
- ・ 学習の意味や価値を自覚させ、主体的に活動することによる、音楽に親しんでいく態度の育成。(3年生)
- ・ これまでの様々な学習状況に応じた、表現の創意工夫とそのために必要な技能の習得と伸長。
- ・ 音楽表現の多様性を理解し考えながら、音楽のよさや美しさを味わって聴けるようにする能力の育成。そのための批評する活動の充実。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い音楽活動を可能にするために、効率的な授業展開を工夫して実施する。(学習内容の充実、グループでの課題解決型学習等) ・ 授業ごとに記入するワークシートや鑑賞プリントの内容の工夫により言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に音楽を表現するために、表現の授業において体を動かす活動を積極的に取り入れる。 ・ 授業で使用したワークシートや音源、動画をGoogle Classroomでも共有し、個別学習を可能にする。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを他者と交流したり、感じ取ったことなどに共感したりしながら個々の学びを深められるような協働的な活動を充実させる。(表現、鑑賞における様々なグループ活動) ・ 幅広い音楽活動を可能にするために、効率的な授業展開を工夫して実施する。(学習内容の充実等) ・ 授業ごとに記入するワークシートや鑑賞プリントの内容の工夫により言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で使用したワークシートや音源、動画をGoogle Classroomでも共有し、個別学習を可能にする。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い音楽活動を可能にするために、効率的な授業展開を工夫して実施する。(学習内容の充実、グループでの課題解決型学習等) ・ 授業ごとに記入するワークシートや鑑賞プリントの内容の工夫により言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材や授業ごとの具体的な目標の提示と振り返りを行い、達成感を味わわせるとともに、先を見通して主体的に取り組めるようにする。 ・ 授業で使用したワークシートや音源、動画をクラスルームでも共有し、個別学習を可能にする。

(6) 美術科

【中学校】

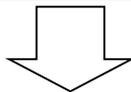
美術科における指導の重点

- ・ 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。
- ・ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようになる。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 美術に興味・関心をもっている生徒が多いが、一斉指導での作業説明の理解力や、技術的な能力差が多く、個別指導を必要とする生徒も各クラス数名いる。(全学年)
- ・ デザイン構想に時間を多く使い過ぎてしまう生徒がいるため、見通しをもたせる声かけが必要である。(1年生)
- ・ 作品の完成度を上げていく中で、「この程度でよい」と考え、作品制作を終える生徒がいるため、主題を深める指導が必要である。(2年生)
- ・ 基本的な透視図法の造形方法や彩色に関して、理解に差があるため、個々への指導時間に差が出てしまった。全体指導でより明確になるよう、分かりやすい指導が必要であった。(3年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・ 一斉指導後の個々への声かけを増やし、生徒同士でも教え合いやすい環境作りをする。・ 授業外でも相談や次への課題を見つけ出せるよう、ICTを活用した振り返りを行う。・ クラスメイトのデザインを共有し合うことで、互いの発想・思考力の向上を目指す。・ 昼休みや放課後に作品制作の補充授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none">・ デザイン構想の時間を、各自か多くとれるよう、家庭学習の時間も取り入れながら制作時間を確保する。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・ 美術を知識技能としてだけでなく、自分を表現するツールとして活用し、課題を自分事として捉えられるよう導入を行う。・ 個々の差を減らすために、声かけを増やす。	<ul style="list-style-type: none">・ 「色」への感じ方や見え方の違いを確認し、色をつくる力の優劣を感じさせない、取り組みやすい活動にすることで、他者と自分のとらえ方の違いに素直に気付かせる。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・ デザインの構想中に、生徒自身が主題を深められるよう、他者作品を鑑賞し合う時間を設け、協働的な学びができるよう工夫する。	<ul style="list-style-type: none">・ 見通しをもって作業できるよう、計画を立てやすいようなワークシートを使用する。

(7) 保健体育科

【中学校】

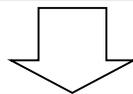
保健体育科における指導の重点

- 心と体を一体として捉える。
- 生涯にわたって心身の健康を保持増進する。
- 豊かなスポーツライフを実現する力を身に付ける。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 教師の指示の出し方が不明瞭な場合があり、生徒に伝わらずに混乱を招く場面があった。また、提出物の提出状況が芳しくなく、生徒に提出するよう粘り強く呼びかける必要がある。(1年生)
- ・ 動画や Google スライドを用いて、学習の振り返り・まとめを行うことができている。特に、相手をイメージした単元のまとめを行うことで、言葉の選び方、資料の提示の仕方などアウトプットする力が高まっている。(1～3年生)
- ・ 自己やチームの課題について「できていない」場面や現象は捉えることができるが、その原因や「何を」「どうしたら」解決できるのかを関連付けて考えることがまだ苦手なため、指導をする必要がある。(1～3年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別最適な学びの実現のために、各々の課題に合致した練習メニューを提示する。また、その練習メニューを複数人で取り組んでいく。 ・ 教え合い助け合いの中で、協働的な学びを生み出していく。さらに、全体として、全員が楽しめるようなルールづくりをとおして、個と集団をつなげる役割を強固にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育的な見方・考え方を養うために、身体知の獲得、技能向上を目指す。方法として、効率的な体の動かし方を伝えること、コーディネーショントレーニングを取り入れることなどがあげられる。 ・ それぞれの競技特性を理解した上で、ICTを使った運動観察や課題解決学習に取り組んでいく。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働学習や教え合いの場面を多く設定し、こちらで着目するポイントや失敗例を Google Classroom を通じて、いくつか挙げ、生徒がその場面を想像しやすいようにしていく。また、動画などを使い、視覚的なアプローチをすることで、想像力を高めていく。 ・ 見るポイントを役割分担して、課題に対してグループの中での責任をもたせる。また、スプレッドシートを活用することで、話すことが苦手な生徒も自分の意見を伝えることができているため、継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の予習・復習のために、Google Classroom を通じて、参考資料や授業で話した運動のポイントをまとめたものを配信する。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の課題に応じて、練習メニューや活動場所を選べるような設定をしている。1時間の中で、行き来したり、トライ&エラーを繰り返したりできるような幅と流動性がある中で活動を実施する。 ・ 必要などきに、必要なものを、必要な人が、いつでも使えるように、iPad、Google Classroom を「データベース」として活用する。 ・ 意見を共有するなど、新たに「共創」するためのツールとしてスプレッドシートを活用している。課題解決のためには、自分も相手もそこに関わらなければ解決できないような仕掛けをすることで「自分事」として学習に取り組めるようにしている。また、学習活動の中に「する」以外の関わりを常に設定し、得意・不得意に関わらず、一人ひとりが役割をもって活動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語化するのが苦手な生徒もいるので、話し合いに活用できるような「キーワードマグネット」を掲示し、それらを当てはめたり、組み合わせたりすることで、思考を言語化できるような工夫をする。 ・ 単元の特性や面白さ、魅力を失わせない中で、ルールを工夫するなど、生徒たちが自分たちで「ここまで」と選択できるようにする。 ・ 「分からない」「難しい」といったマイナスの振り返りをそのままにしないためにも、Google Classroom を用いて即時性のあるフィードバックを心がける。

(8) 技術・家庭科

【中学校】

技術・家庭科における指導の重点

- ・ものづくりや衣食住に関する実践的・体験的な学習を通して基礎的な知識・技術を身に付けさせるとともに、主体的に生活や制作の改善に取り組み、他者と関わりながらより良い社会を築くための技術を適切に評価・活用する力を育む。
- ・ものづくりや生活を支える能力の育成を重視する視点から、創造・工夫する力や知的財産を尊重する態度、勤労観・職業観などの育成を目指す。

現状分析

教科指導上の課題

【1年生】

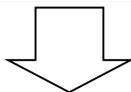
- ・作業など集中力を持続させることが困難な生徒もいるため、持続できるよう指導を行う必要がある。
- ・限られた時間の中で課題を解決するためのスケジューリングを身に付けさせる必要がある。

【2年生】

- ・丁寧に作業できるが、時間を掛け過ぎてしまう生徒もいるため、見通しを持ち作業を行えるよう指導する必要がある。
- ・話し合い活動で積極的に参加できない生徒もいるため、ICT機器を用いた共有の仕方なども取り入れる必要がある。

【3年生】

- ・授業回数が少ないため、Google Classroomでの授業資料の配付などの柔軟な対応が必要となる。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	【技術分野】 ・毎時間の振り返りをiPadで行い、ICT機器の使用を習慣化する。 【家庭分野】 ・互いの作品や作業の成果を見合い、学びあえる機会を定期的に設定する。	【技術分野】 ・切り替えを重視した授業ができるよう教材選びを工夫する。 【家庭分野】 ・基礎基本を学ぶ時間に十分なゆとりをもち、生徒が安心して取り組めるようにする。
2年生	【技術分野】 ・協働で操作でき共有が可能なマインドマップを活用し、自身の意見の整理と意見の共有を行う。 【家庭分野】 ・個々の能力に合わせて製作できる教材を用いて、作業の選択に幅を持たせる。	【技術分野】 ・振り返りを行い内容の把握と自身の作業の進捗とスケジュールを見比べ改善出来るようにする。 【家庭分野】 ・作業の基礎基本について、各自が繰り返し確認できる教材見本を工夫する。
3年生	【技術分野】 ・プログラミングでは、自身のペースで基礎を学び、その上で協働でのプログラムの作成を行う。 【家庭分野】 ・家族・家庭生活の領域では他者との意見交流をもとに自分自身の考えを深められるようにする。	【技術分野】 ・振り返りを行い内容の把握と自身の作業の進捗とスケジュールを見比べ改善できるようにする。 【家庭分野】 ・少ない時間の中でも、作業に必要な技術を繰り返し確認できるようにICT機器を活用する。

(9) 外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点
(1) 英語を通じて、情報や考えなどを積極的に理解したり、表現したり、伝えあったりするなど、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
(2) 単に英語の文法規則や語彙などについての知識を身に付けるだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として、英語を運用することができる能力の基礎を養う。

現状分析

区学力調査の結果分析

目標値を達成している生徒の割合は以下の通りとなった。

【2年生】総合：68.1%/基礎問題 66.7%/活用問題 68.7%/知識・技能 71.4%/思考・判断・表現 64.6%/主体的に学習に取り組む態度 56.5%

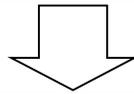
【3年生】総合：73.1%/基礎問題 72.4%/活用問題 73.9%/知識・技能 76.4%/思考・判断・表現 68.7%/主体的に学習に取り組む態度 66.4%

教科指導上の課題

【1年生】語句や文の意味は概ね理解し活用できているが語句使用の正確さ、対話を継続する力を指導する必要がある。

【2年生】言語材料や文構造が十分に身に付いておらず、誤りの多い英文を話したり書いたりする生徒が一部見受けられるため、言語活動において個に応じたきめ細かな指導をする必要がある。

【3年生】知識・技能を強化させ、実際のコミュニケーションで正確に・適切に活用させる指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○帯活動でデジタルコンテンツを活用し、取り組み方法を自己選択させ、学んだ内容をアウトプットさせ共有させる。 ○自分の考えを深め自信をもって表現することができるよう、同じ topic で複数回の言語活動を行う。(活動→指導→活動の流れを大切にす) また、正確性を高めるために、話したことを書き出してペアなどで確認する時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テストや単元テストで基本的な文法・語彙の定着を図る。 ○授業、家庭学習でわかるようになった文を音読・暗唱をさせ表現につながる知識・技能の定着を図る。 ○テーマを理解したり、自分の考えを表現したりするために iPad を活用した調べ学習やマッピングの時間を確保する。 ○3 行程度の writing 課題の添削を定期的に行う。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○オンラインアプリを用いた帯活動としての語彙学習・言語活動の時間をさらに増やし、その中で生徒が学習内容を個別最適に自己選択できる機会を充実させる。 ○共同編集アプリやオンライン掲示板アプリを活用して、生徒たちが小集団で協働的に学習することのできる授業計画を立て、協働的な学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業内でのきめ細かな発音指導や、ノートやワークシートを用いた「書く」トレーニングの実施。 ○単語を「読めない」生徒や「書けない」生徒への個に寄り添った指導を行う。 ○定期的な習熟度テストの実施。 ○ライティングの成果物に対するきめ細かな添削指導。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルを活用した個別最適な語彙学習の継続。 ○教育用デジタル掲示板を活用した意見の交流の継続。 ○言語活動における自己選択場面の設定の継続。 ○スライドやドキュメントを共同編集しながら作品を制作する機会の設定。 ○受験期における自由進度学習・自律学習・ポートフォリオを活用した学習機会の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○帯活動でのスパイラルな学習機会の設定の継続。 ○既習事項を活用させる言語活動の設定の継続。 ○音声から文字への指導ステップの継続。 ○自己関連性をもたせた言語使用機会の設定の継続。 ○自由進度学習・ポートフォリオ学習を活用した個別のゴール設定と自律的学習機会の設定。 ○イメージを活用した語彙指導や Slash Reading など、英語を英語のまま語順通りに理解する手法の継続。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

